


兵庫県内経済情勢報告 (令和6年4月判断)

1. 総論

【総括判断】「持ち直しのテンポが緩やかになっている」






| 項目 | 前回 (6年1月判断) | 今回 (6年4月判断) | 前回比較 |
|------|-------------|--------------------|---|
| 総括判断 | 持ち直している | 持ち直しのテンポが緩やかになっている |  |

(注) 6年4月判断は、前回1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、回復に向けたテンポが緩やかになっている。生産活動は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。雇用情勢は、テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。以上のことから、県内経済は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。

【各項目の判断】

| 項目 | 前回 (6年1月判断) | 今回 (6年4月判断) | 前回比較 |
|------|------------------------|------------------------|---|
| 個人消費 | 緩やかに回復しつつある | 回復に向けたテンポが緩やかになっている |  |
| 生産活動 | 緩やかに持ち直している | 持ち直しのテンポが緩やかになっている |  |
| 雇用情勢 | テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある | テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある |  |
| 設備投資 | 5年度通期は前年度を上回る見込みとなっている | 5年度通期は前年度を上回る見込みとなっている |  |
| 企業収益 | 5年度通期は減益見込みとなっている | 5年度通期は減益見込みとなっている |  |

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、テンポが緩やかながらも持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。さらに、令和6年能登半島地震の経済に与える影響に十分留意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費「回復に向けたテンポが緩やかになっている」

百貨店・スーパー販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っているものの、スーパーにおいて、値上げによる購入点数の減少などの要因から、増加率は前期よりも下降している。

ショッピングセンター販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っており、値上げによる客単価の上昇などの要因から、増加率は前期よりも上昇している。

コンビニエンスストア販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っているものの、物価高による買上点数の減少などの要因から、増加率は前期よりも下降している。

ドラッグストア販売額は、今期は前期から引き続き前年を上回っているものの、購入点数や来店客数が減少しているなどの要因から、増加率は前期よりも下降している。

ホームセンター販売額は、暖冬が続いたなどの要因から、前期に引き続き今期も前年を下回っている。

家電大型専門店販売額は、前期は前年を上回っていたものの、今期は前年を下回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、前期は前年を上回っていたものの、今期は前年を下回っている。

宿泊施設では、稼働率は前期よりも下降している。

これらのことから、個人消費は、回復に向けたテンポが緩やかになっている。

(主なヒアリング結果)

- イベントの再開や円安効果もあって来店客数が順調に増加しており、ラグジュアリー商品や化粧品を中心に売上が好調。(百貨店)
- 値上げにより購入点数の減少が続いている。大容量商品のほか、同じ商品でもより低価格のものが売れている。(スーパー)
- 物価高等による値上げから客単価が上昇しており、売上の増加に繋がっている。また、来店客数の増加に伴い、飲食店の利用も増えている。(ショッピングセンター)
- 物価高によりデザートやお菓子などの買上点数が減少している。また、雨の日が多く、行楽地や観光地の客足に伸び悩みが見られた。(コンビニエンスストア)
- 値上げによる節約志向が続いており、購入点数や来店客数が減少している。また、冷凍食品など一部商品では、4月の値上げ前の駆け込みが見られた。(ドラッグストア)
- 暖冬により引き続き、暖房器具の売れ行きが良くない。また、雨の日が多かったことから、園芸や新生活関連も足踏みしている状況。(ホームセンター)
- 引き続き順調に生産されていることから、販売台数も堅調に推移。また、単価の高い車種の売れ行きが良く、売上の増加に繋がっている。(自動車販売店)
- 引き続き堅調な利用が続いている。特に円安効果もありインバウンドの利用が増加している。(宿泊)

■ 生産活動「持ち直しのテンポが緩やかになっている」

鉱工業指数（生産）は、「情報通信機械」や「輸送機械」等が低下しているものの、「汎用機械」や「業務用機械」等が上昇している。一方、企業からは、自動車の不正認証問題や長引く中国経済の低迷から落ち込んでいるとの声が聞かれている。

これらのことから、生産活動は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。

（主なヒアリング結果）

- 中国での不動産市況の低迷から、在庫調整が継続している。コロナ禍で打撃を受けた企業向けで回復しているものの、全体としてまだ設備投資には慎重な姿勢が見られる。（汎用機械）
- 中国におけるコロナ後の生産計画の変更などにより、自動車向けの受注の減少が続いている。（情報通信機械）
- 不正認証問題により、年明け以降落ち込んでいる。随時再開されてきているが、今後については不透明感がある。（輸送機械）
- 中国の景気減速により、取引先からの生産機器部材の受注が減少している。（電気機械）
- 半導体向けで在庫調整が続いているほか、中国向けも回復しておらず低迷した状態となっている。（生産用機械）
- 不正認証問題の影響を受け、自動車向けで一部数量の減少が見られた。IT・半導体向けは在庫調整が進み少しずつ回復しているものの、本格的な回復にはまだ至っていない。（鉄鋼）
- 主力のフェンスや土木向けで需要が低迷しており、受注に結び付いていない。なお、自動車向けにおいて不正認証問題の影響から若干の減少が見られた。（金属）
- 国内外において電子デバイス向けの需要が回復に至っていないほか、特に中国では自動車向けの落ち込みが続いている。（化学）

■ 雇用情勢「テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある」

令和6年2月の有効求人倍率は、受理地別では1.03倍、就業地別では1.14倍で推移している。

また、法人企業景気予測調査の従業員数判断 BSI について、全産業の現状判断は、令和6年1~3月期調査では28.7%ポイントと引き続き「不足気味」超となっている。

以上のことから、雇用情勢は、テンポが緩やかながらも、持ち直しつつある。

(主なヒアリング結果)

- コロナ後の外国人旅行者等の増加により、宿泊・飲食サービス業の求人が増加している。また、原材料価格の価格転嫁が進んでおり、減少が続いていた製造業の求人へ下げ止まりが見られる。(公的機関)
- 求人を出しても人が集まらない状況が続いている。また、最近では時給を上げて人を集めようとしても、他社も同じように時給を上げるため競争となっている。(食料品)
- 内定を出していたものの、現時点で今年の新規採用者は確保できていない状況。雇用形態に魅力を感じていないのではないかと。(パルプ・紙)
- 現場管理や営業職で不足が生じている。1人あたりの負担が増している。(建設)
- 新しく雇い入れたいが、募集をかけてもなかなか集まらない。(運輸・郵便)

■ 設備投資「5年度通期は前年度を上回る見込みとなっている」

法人企業景気予測調査（令和6年1~3月期調査）で見ると、5年度通期の設備投資は、製造業では「化学」、「輸送用機械」等が前年度を上回っており、非製造業では「不動産」、「運輸・郵便」等が前年度を上回っていることから、全産業では「前年度を上回る見込み」となっている。

■ 企業収益「5年度通期は減益見込みとなっている」

法人企業景気予測調査（令和6年1~3月期調査）で見ると、5年度通期の経常利益は、製造業では「情報通信機械」等が増益見込みとなっているものの、非製造業では「運輸・郵便」等が減益見込みとなっていることから、全産業では「減益見込み」となっている。

【その他の項目】

- **住宅建設** 新設住宅着工戸数（令和6年2月、後方3ヶ月移動平均）でみると、前年を下回っている。
- **公共事業** 前払金保証請負金額（令和6年3月、年度累計）でみると、前年を上回っている。
- **輸出入** 神戸港の通関実績（円ベース、令和5年12月-令和6年2月、3ヶ月平均）でみると、輸出は、プラスチック、重電機器等が増加していることから、前年を上回っている。
なお、輸入は、前年を下回っている。
- **企業倒産** 企業倒産件数（令和6年1~3月、3ヶ月平均）は、前年を上回っている。
- **企業の景況感** 法人企業景気予測調査（令和6年1~3月期調査）の景況判断BSIでみると、現状判断は「下降」超となっている。
先行きについては、全産業でみると、令和6年4~6月期は「下降」超で推移し、令和6年7~9月期に「上昇」超に転じる見通しとなっている。

【問い合わせ先】

神戸財務事務所 財務課
TEL：078-391-6942